

国指定史跡 菜畑遺跡



種別	国指定史跡
所在地	唐津市菜畑3359-2 Google Mapで表示
指定年月日	昭和55年（1980）5月11日
別称（施設名）	末廬館

概要

菜畑遺跡は唐津市街地の西側の丘陵に位置し、昭和54年（1979）、都市計画街路建設に伴う確認調査で発見されました。翌昭和55年、56年に唐津市教育委員会によって発掘調査が行われました。

発掘調査の面積は約700㎡と狭い範囲でしたが、住居跡・土壌墓（どこうぼ）・甕棺墓（かめかんぼ）に伴い、水田跡・水路・井堰（いぜき）等の水田耕作が行われていたことを示す遺構が発見されました。

水田跡は土を盛った畦や矢板列によって区画されており、縄文時代晩期（弥生時代早期）から弥生時代中期にかけての数期にわたる変遷が明らかになりました。

特に最下層の水田跡からは、炭化した米や木製・石製の農具とともに縄文時代晩期後半の土器が出土し、当時確認できる日本最古の水田跡として注目を集めることとなりました。

皆さんが日頃食べているお米ですが、そのお米が日本で最初に伝わって栽培された場所が、菜畑遺跡であったことが発掘調査で分かった瞬間でした。

古い時期の水田跡が確認された遺跡は、菜畑遺跡のほか、福岡市板付遺跡や糸島市石崎曲り田遺跡があります。いずれも玄界灘沿岸に位置することから、お米がどこから伝わってきたか

暗示されます。これらの遺跡の発見は日本の水稻耕作の歴史を一気に遡らせましたが、菜畑遺跡の重要な点は当時の人々がどのような食生活を送っていたかを再現できる点にあります。

丘陵の麓では水田を耕作し、家の周りにブタを飼い、畑ではアワなどの雑穀やアズキなどの豆類、ゴボウ・ナスビなどを栽培していたことが分かりました。

また、この頃から犬を飼っており、犬と共にイノシシ・シカを中心としてノウサギ、タヌキなどの狩猟も行っていました。

そして、山の幸としてマタタビ・ヤマイモ・イチゴなどの植物の採集も行い、海の幸としてサメ・エイ・イワシ・マグロなどの魚類や貝類、イルカなどの海棲哺乳類も捕獲していました。



発掘された水田跡

このように新来の稲作文化と狩猟・採集を中心とした伝統的な縄文文化が相互補完しながら安定した水稻稲作経済へと進んだことが菜畑遺跡の調査で分かりました。

現在、遺跡は埋め戻されていますが、保存整備によって竪穴住居や水田が復元されており、菜畑遺跡をはじめとした出土資料を展示する「末盧館」も併設されています。



出土した炭化米



縄文時代晩期の土器

関連リンク

・ [末盧館（唐津市文化事業団外部サイトリンク）](#)

問い合わせ

生涯学習文化財課

〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号

大手口センタービル6階

電話番号：0955-72-9171